



# 穏やかな日常と田を守るため



三間町  
兵頭 晴彦 さん

美味しい米を作るために、厳しい自然を相手に生産に励む。周りの農家が高齢化する中、まだまだ自分は若手の担い手と考え、奮闘中。



復旧が進み、川も以前のように

兵頭さんは、平成30年7月豪雨で三間町を流れる内平ヶ谷川から自身の田に水や土が入り込む被害を受けました。木くずなどが混じり、田からそれを取り除くためには全て手作業で行わなければなりませんでした。電柱も倒れていてすべてをキレイに片付けるまでに50日ほどかかったそうです。同時に浄水場の被災により1ヵ月断水になりました。道の駅へ飲料水を汲みに行き、風呂などは市内の娘さんのところへ通いました。それだけでは終わりません。上から流れてくる田に必要な水が、家の近くの橋や沿岸の崩落により



猛暑の中、自身の田以外の草刈りも行います

せき止められていました。その一帯の田を持つている人たちも水がなければ米を作れません。みんなで力を合わせて、発電機とパイプを用意して上流から水を引き、なんとか米を作ることができました。復旧が進んだ今では以前のようには水も流れてきています。直面している問題は「高齢化」。この時期の草刈りも難しい人が増えていて、兵頭さんは自分の田だけでなく、周りのところも草刈りなどの作業を行っています。「作業は大変。でもまだ元気にやれるうちは頑張りたい」と話してくれました。